VOCABULARY の泉へようこそ

武井　大

■初版の衝撃

『ジーニアス英和辞典 第 5 版』（G5）利用の話の前に少しだけ私個人の経験について記すことをお許しいただきたい。

私が『ジーニアス英和辞典』の初版に出会ったのは，高校 3 年の時であった。当時は，中辞典といえばほぼ同じものを使っている仲間が多い中，人とは異なるものを持ちたいという稚拙な考えとともに，書店で開いた時の感動からこの辞書の購入に至ったことを今でも覚えている。G5を見ると，その頃の内容から evolution の過程を経てきていることが分かる。

■語源と原義

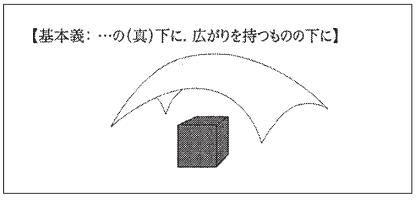
私を含め，購入者を引きつけた理由の一つとして，【原義】が明解に掲載されたことがあげられる。今も昔も語彙力は，受験生はもちろんのこと社会人にとっても英語力で最も必要な力の一つである。従って，語義がたくさんある単語については，【原義】を覚えておくことで，わざわざ受験用の単語集を買わずに済むはずである。

G5でも【原義】の魅力は継承されている。wear の項目を見るとまず，【原義：着せる→着古す→疲れ(させ)る】と，語の歴史を把握でき，頭に残りやすい記述になっている。

また，語義の❶で「…を着ている」でなく「…を身につけている」を最初に記しているので，目的語として「服」だけでなく，「化粧」「コンタクトレンズ」なども置けることが分かる。

■図でマスター

G5の特徴で学習者にとって魅力的なのは，【前置詞】のイメージ図と意味ネットワークである。複数の外国人講師に，生徒にマスターさせるのが一番難しい文法項目は何かと尋ねると，前置詞と返答されることが多い。高校生が理解するのに時間がかかるのは仮定法や分詞構文なのだが，英文を書く際に間違いが多いのは，冠詞と前置詞である。最近の参考書では掲載されるようになっているが，前置詞はイメージ(図)で理解するのが最も効果的であると言える。下の under の項目を参照すれば，概念は日本語の解説よりもずっと理解しやすい。今後は，動詞などにもイメージ(図)が入ることを期待している。



underのイメージ図

■語根・接頭辞・接尾辞の利用

本校では現在『ジーニアス英和辞典』は学校推薦辞書であるが，昨今では電子辞書のコンテンツが充実し，コストパフォーマンスが上がっているため，いわゆる紙の辞書を持つ生徒が減ってきている。しかし，よく言われるように，私も入門期の学習，特に語彙力を高める時期においては紙の辞書の利用が有益だと考えている。それは，電子辞書の限られた画面では，一度に目に入る情報量

も限られてしまうからである。

紙の辞書の利点は【語根・接頭辞・接尾辞】の参照である。例えば，contradict を辞書で調べたとしよう。G5では，【原義：反対にして（contra）言う（dict)】と書かれている。意味や例文を調べるだけではなく，この見開き 2 ページに目をやると大学受験・英検 2 級以上で必要な contrary，contrast やその派生語が掲載されている。contra（contr）で「反（対)」というイメージが持てれば，ある程度，意味は推測でき，長文読解では武器になるはずである。私が知る限り，電子辞書ではまだ，この「見開き 2 ページを見る」ということはできない。ちなみに dict のほうも，dictionary や predict などの単語との関係を知れば，語彙力も増強できるであろう。実際，私は授業において語根・接頭辞・接尾辞を説明しているが，生徒もよく聞いてくれる。この知識は，初期だけでなく中級の学習者にとっても，好奇心を喚起し，理解を深めるスキルとなるであろう。

■英作文の指導

G5で evolution と考えられる項目の中に【類語比較】の増設がある。現在私が教えている高校 2 年生は自分の意思を表現できるように英語の例文暗誦をしているところだが，高校 3 年生になると，思いつく日本語にどの英語表現を使えば良いのか躊躇するようになる。

例えば，「国」ということばにすべて country を当てはめる生徒が出てくる。日本人の心をえぐり国民的関心事となった「イスラム国」も英語にすると“country”ではなく，彼ら自身は Islamic State，メディアなどでは Islamic State in Iraq and the Levant と“state”を用いている。この点を理解するには右上の知識があると適切な単語選択ができる。G5には多くの【類語比較】が掲載されており，コラムとして読んでも良い学習になるのではないだろうか。

> **類語比較** [country, nation, state] **country** は地理的な国土としての国で **nation** は特に言語・歴史・文化を共にする人々の共同体として見た国を指すが，この 2 つの語はしばしば交換して用いられる：Germany was divided into two countries [nations] after the World War II. 第二次大戦後ドイツは 2 つの国に分割された. **state** は法律的・政治的な概念としての国家を指し，主に政府の特定の形態をいう：a military [welfare, socialist] state 軍事[福祉，社会主義]国家.

また，【コロケーション＋】の項目も英作文学習には有用である。money の【コロケーション＋】を見ると多くの表現が掲載されている。生徒が書く際に，native が使わない［動詞＋目的語］の組み合わせを使うことがある。高校生ともなれば，use money, study homework などとは書かないが，do＋...（名詞）で「…をする」（例：do a census）と苦し紛れに書く生徒はいる。私個人も，【語法】【表現】も参考にしながら，英作文の指導に生かしたいと考えている。

■最後に

TOEFL，TOEIC，TEAP，様々な資格・検定試験，大学入試において，語彙力の増強が何よりも大切であることは言うまでもない。もちろん，基盤となる文法力は必要であるが，点数が伸びなかったり，不合格となっている生徒は語彙力不足に起因していることが多い。

「辞書を引け！」という教師が減って久しい。しかし，生徒が効果的に語彙力を増強し 4 技能で使えるようにするには，教育現場で定着している音読→テスト(確認)に加え，G5など紙の辞書，インターネットなどを使った単語参照・調査のような academic　task の実践も期待したい。この task を個人だけでなく group でも行い，presentation につなげれば，文部科学省が推奨する active learning の一手段となるのではないだろうか。

私の高校時代から IT 社会の現代になっても，「言葉を楽しむ」ことができる VOCABULARY の泉が紙の辞書にはある。

（たけい　まさる・桐光学園中学高等学校教諭）